

関西記念病院

(平成 26 年 5 月 15 日訪問)

平均在院日数 321 日(平成 26 年 4 月 30 日時点)

積極的な取り組みなど

- ・ 北館では全てのベッドにナースコールがあった。
- ・ 北館ではベッドごとの仕切りがカーテンではなく壁で仕切られ、すべてが個室ようになっていた。
- ・ 各病棟に洗濯物を干す場所があった。

前回の訪問(平成 20 年 5 月)から改善されていた点、未改善点など(南館について)

- 隔離室の天井までの高さの鉄格子、病室の窓の両側にある鉄格子は撤去されずに残っていた。
- 前回、診察室はなかったが、今回は詰所内にできていた。
- 前回なかった、ベッド周りのカーテンは、今回は設置されていた。6 人部屋が 4 人部屋になり、1 人当たりのスペースが広がっていた。
- 前回、浴室は病院全体で 1 ヶ所しかなかったが、今回は新築された北館の各階に浴室が作られたので、前回訪問時にあったような入浴の慌たしさについての患者の声はなかった。

病院全体

人権委員会・意見箱

人権委員会の委員長は院長、開催頻度は月 1 回。意見箱は各病棟と外来に設置。回収は危機管理委員会の委員が行う。北 3 病棟では消灯時間がくると意見箱を詰所内に取り込む。意見箱への投書への回答は掲示板に掲示されていた。

薬

自己管理について、患者によると「薬が配られる時間になると職員が薬を配るところに行き、チェックしてもらおう」とのこと。眠前薬は午後 9 時に配られるので取りに行き、消灯は午後 10 時。

金銭管理

病院管理料が 108 円/日、鍵付ロッカーは 1 回の入院につき 500 円、殆どの患者はロッカーを借りる。病院に預けたお金の出金は週 2 回、決まった曜日。前日に希望の額を申請する。院内売店はなく、病棟で物品の販売を週 1 回行う。

その他

入浴は週 3 日。面会は面会室かデイルーム。面会時間は午後 1~7 時。

2 階と 3 階について

電話

【南館】詰所からは少し離れているが、詰所から見える位置にあり、囲い等はなかった。

【北館】各病棟に 2 ヶ所。詰所横の電話ボックスは電話番号が貼られ、外部からの電話は詰所の職員を通して取次いでもらえる。2 つ目は詰所から離れた位置にボックス式でカードも使える電話。

隔離室

【南館】詰所の奥に各病棟に 2 室。詰所に面して小窓があり、患者がノックすれば職員に聞こえる。小窓には詰所側にカーテンがあった。トイレとベッドの間は天井までの高さの壁で仕切られていた。

【北館】3 種類の構造(下記の①~③)の隔離室があった。トイレは洋式で、天井までの高さの囲い、手を洗うための設備があった。トイレの囲いに付いている透明の窓には擦りガラス風のシールが貼られ、寝床から便器が見えない。日当たりがよく、外側の窓にリモコンで開閉できるブラインドがある。

①ハード：各病棟に 3 室。トイレに水はたまらず、多飲水の患者に対してこの部屋を使う。モニターカメラがあり、手を叩いたり、声を出すと詰所にわかる。柵の足元部分は横長の窓で、その窓の下は木目調の台になっていた。横長の窓から食事を入れ、この台を机がわりにして食べる。

②ミディアム：各病棟に 2 室。ベッドからの転落防止の為のマットレスが敷かれていた。モニターカメラはあった。職員が紙やテープ等が貼って、一見ダンボール箱と分らない箱を机にしていた。

③ソフト：各病棟に 2 室。ほかの病室と同じナースコールとベッドと机があった。

南館

改修により各階に 1 つの病棟となっていた。病室は 4 人部屋となり、1 人当たりの面積が広がった。窓が大きく、明るかった。各病棟の出入口が開くと大きなブザー音がして、デイルームにまで響いていた。

南 2 病棟 (閉鎖 男女 精神一般 15:1 60 床)

高齢の患者が中心、認知症の患者が多い。デイルームに患者数名と職員が円になって話をしていた。

南 3 病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 60 床

長期在院患者が多く、他の病棟よりは外出する患者が多い。短期入院ではない場合、北 4 病棟→北 2 病棟→南 3 病棟と転棟して退院していく患者が多い。

患者の声

「この間、ケースワーカーが何か制度の説明に来てくれた」「診察のときは看護師が呼んでくれる。私は 1 人か 2 人待ったら診察を受けられる」「私は任意入院なので自由に外出ができるし、お金も自己管理できている。外出はコンビニや近所に買物に行っている」

北館

病室は隔離室ゾーンと4つのゾーン(abcd)に分かれていた。病棟内にデイルームが1つあり、abcdの各ゾーンはデイルームに繋がっていて自由に行き来できる。デイルームには大きな窓があり、外の景色がよく見えた。窓際にカウンターがあり、窓に向かって座ることができる。新聞と広告があった。デイルームに面した病棟の中央部分に詰所があった。トイレは3ヶ所あった。うち1ヶ所は車椅子対応だが、車椅子では開けにくい扉だった。

デイルームや病室の机や椅子等には白色が多く使われていた。ベッドは少し低めで高さの調節やリクライニングができない。病室の椅子はプラスチック製で背もたれがなく座面の下に荷物が入れられる。座るには不安定だった。

病室

a~dの各ゾーンに4人部屋が2室と個室が1~2室あった。4人部屋でも実際は個室のような造りだった。病室に入るとまず共有スペースがある。そこに4つの扉があり、扉を入ると1名分のベッドと机と椅子が置かれた個室状のスペースがあった。ベッドごとに大きな窓があり、外からの光が沢山入って明るい。窓の内側には破れにくい障子の建具が設置されていて、自由に開閉ができた。

北2病棟 (閉鎖 女性 精神一般 15:1 50床)

年齢は20代前半~70代。医療保護入院がほとんど。任意入院が2名いて、地域移行・地域定着支援事業を利用中であるが、開放制限がかかっている。急性期は過ぎているが隔離室の利用は多く、隔離室は常に埋まっているとのことだった。

OTは週2回、1回2時間。殆どの患者が参加。この病棟の役割は入院期間を長期化させないようにすること。面会や外出、外泊のために、根気よく家族へ働きかけるようにしている。患者本人が病気を受容れることが難しく、言葉が攻撃的になったり、不安定になったりしているのを立て直すことも必要なことが多い。ケースワーカーに繋いだりもする。

患者の声

「南3病棟にいた時は、任意入院で外に出られた」「冷蔵庫は詰所の中にあるが使わせてもらえない。おやつを食べたくなる時もある。ここでは飲物だけ」「診察は診察室で、時間をとって話を聞いてくれる」「夜に胸がざわつくことがあっても夜は看護師数も少ないし、夫に電話して話を聞いてもらい寝る」

北3病棟 (閉鎖 男性 精神一般 15:1 50床)

病室で過ごしている患者も多いようだったが、デイルームでテレビを見たり、新聞を読む患者、電話ボックスで電話をしている患者など様々だった。

患者の声

「夜寝る前に音楽が流れる」「入院生活で特に困っていることはない。静かに療養している」「土日に家族が来てくれ、一緒に樟葉まで外出したり散歩をしている」「入院して5年間だが、担当ケースワーカーはずっと変わらずいる。たまに病棟にくる。むこうから声をかけてくれることもある」「困りごとは主治医と看護師に相談できている。薬は薬剤師と主治医から説明を受けた」「病気や薬について説明は受けていない」

北4病棟 (閉鎖 男女 精神一般 15:1 50床)

隔離室は満床だが、総室の現在の入院患者は14名で、がらがらだった。退院できる患者は退院しても、新規入院者が少ないため、半分为空室となっている。

患者の声

「任意入院。樟葉モールや郵便局、図書館などに行っている。交通費は貴重品ロッカーに入れている」「主治医から『外泊をもう1回して退院』と言われている。退院したら姉が食事の世話をしてくれるので、病院食の献立を参考に姉にリクエストしようと思っている。そのためにメモ帳に献立を書き写している。主治医やケースワーカーの言うことを聞いて退院したい。入院中にお金を使うといったらデイルームの自動販売機のジュースか散髪代だけ」

検討していただきたい事項

個別対応について

隔離室の患者は約200ccの紙コップでお茶を飲むことになっていた。また、外出時の食事については、患者から「家族が面会に来てくれる人は基本的には家族と外出したときにしか外食はできない。自分は家族の面会がないから外に出た時に食べてもいいと言われている」「外出しても自由に食事はできない」との声があった。シャワー浴は「やむを得ない理由」がないと使えない。また、面会者からの差し入れは「1種類しかだめ。ケーキならケーキだけ、おかしならおかしだけ」など、細かな個別対応ではなく、一定の基準をもとにした一律的な対応が見られた。(病院:隔離室ではプラスチック製のコップは割れるため紙コップを提供しています。一律の紙コップを使用することによって飲料水摂取量のおおよその把握ができます。食事に関して治療上食事制限の無い方には外食・差し入れ食を認めております。生ものは控えるようには伝えています。シャワー浴は生理時・体調不良時・外出時には認めています。今後個別対応に関し検討していきたいと思えます。)

薬の渡し方について

南2病棟以外では以前は職員が病室を廻って配っていたが、今は基本的には薬は自分でデイルームや詰所のカウンターへ取りに行くことになっていた。

(病院:配薬中に患者が病室内に於いて不穏・興奮状態になった場合を想定し現在のように変革しました。食後はホールにいる患者が多く、自主的に食後薬は服用して頂きたいと思います。新館は個室が多く、死角も多いので各病室を回るのは人数的に困難であります。特に夕食後・朝食後等の夜勤帯は看護スタッフが少なく長時間にわたり詰所が空になり、いざという時の対応が出来なくなります。南館は病室にての薬の手渡しを復活していくよう検討します。)

プライバシーへの配慮

どの隔離室にも扉の横に行動制限の指示書や細かな服薬方法、扉の開放時間等が記入されたマグネットシートが貼られていた。日中は隔離室から出て過ごせる患者もいるため、これらの掲示が目に入ることもあると思われる。(病院:時間開放や処遇のミス無くす為に工夫されてきました。新館は保護室移動が多い為に何らかの記載が必要です。隔離室前のマグネットシートの名前をイニシャルで記入します。)

詰所・廊下から丸見えの病室(南2病棟)

詰所から廊下を挟んだ位置に個室が数室あった。廊下側に大きな窓があるため、ベッドで寝ている患者の様子が丸見えにならないように衝立が置かれていたが、そのうちの2部屋では衝立が横によけられていた。そのため、廊下から室内がすべて見えた。ポータブルトイレが置かれている部屋もあった。(病院:旧館の個室は観察室として使用しており、詰所から観察しやすいという事になっております。排泄時や処置時にはスクリーンの設置やマグネットシートで対応しておりますが、プライバシー保護のため廊下から見えない工夫をしています。)

意見箱について

患者が意見を投書する意見箱は片手で簡単に持ち上げられる小さくて軽いものだった。設置場所は、詰所のオープンカウンター上(北館)や、デイルームの洗面台上(南館)など詰所からよく見える位置にあった。意見箱の横に用紙やペンは設置されていなかった。(病院:意見箱は詰所から見えにくい場所に設置します。用紙とペンを各病棟には設置致します。)

外出の機会の保障を

「PSWと一緒にあれば買物に行く許可が医師から出ているけど、ワーカーは『忙しい』という理由で付き合ってもらえない」「親戚か保護者が来ないと外に出れない。友人ではあかん」との声があった。季節の行事として年に数回の外出はあるようだったが、病棟のスケジュールに外出等の曜日設定や、閉鎖処遇の患者が職員と一緒に病棟から出るということが日常的に行われている様子はなかった。また、院内売店はなく、病棟で物品の販売が週1回行われるとのことだった。院外外出のできる患者が病院全体で6名(任意入院24名)、閉鎖処遇の患者については

家族がいる人しか外出ができないため、「外出をしたい」との声が多く聞かれた。(病院:南館は敷地内散歩している。今後は近隣のコンビニ等へ引率する企画をしています。任意入院への移行を勧め外出できるような関わりや、以前のように職員同伴での買物等外出の機会を増やすよう検討します。)

退院支援について

全患者に担当PSWがいるとのことであったが、患者からは担当PSWは「めったに病棟に来ない」「知らない」との声もあった。(病院:現在病棟担当PSWは3名で対応、1名当り60~70名を担当しており、慢性期の患者への退院支援に手が回らない実情があります。その中で退院前訪問指導等月10~20回の看護師と同伴外出をこなし、退院に向けた主治医との家族面談も月30回程同席しています。今回の法改正に基づき医療保護入院患者及び家族へは随時担当PSWの役割を説明させて頂いていますが、早急に対応した上で積極的に関わりを持つようにしていきます。退院に向けた情報提供も工夫改善していきます。)

掲示物について

病棟には掲示物が少なかった。また、掲示物の字が小さいものが多いため、患者から「文字がもう少し大きいと読めるんだけど」との声があった。(病院:公衆電話近くの相談窓口の電話番号表示物は大きく致しました。掲示板が少なく、長期に貼るもの短期に貼るものと区別し掲示物の貼り換えを細目にやればと思います。そうすればもう少し大きな文字で掲示物を作成できると思います。)

医師がよく変わることにについて

患者から「医師がよく変わる。私は2年弱で4人も変わった。そのたびーから説明するのはしんどい」「私は5年ほどで主治医が5人ほど変わった」との声があった。(病院:2年前に理事長交代があり、その時に勤務していた医師が大勢退職されました。医師を募集し、新たに主治医になってもらったのですが、医師が入職される度に受け持ち患者数に変更になり、入院患者には次々と主治医が変わり悪く思っております。治療に関して内服薬は変わっていないと思いますが、今後主治医が変わる時には医師サマリーを記載願ひ、一貫した治療を行いま安定した落ち着いた病院にしていくつもりです。)

精神保健福祉資料より(平成25.6.30時点)

315名の入院者のうち統合失調症群が97名(64%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が35名(23%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が13名(9%)。入院形態は任意入院17名(11%)、医療保護入院135名(89%)。在院期間は1年未満が63名(41%)、1年以上5年未満の患者が45名(30%)、5年以上10年未満の患者が21名(14%)、10年以上20年未満が23名(15%)。